

## 平成 29 年度事業報告書

我が国の経済は、4 年半の現経済政策の取組の下、長期にわたる景気の回復基調が続いており、その長さは、バブル期を超え、戦後 3 番目となりました。その中で、我々市民生活に密接な関係を持つ雇用や所得が改善傾向にあることが特徴点として挙げられます。

全国的に見ると、生産年齢人口が減少しているにもかかわらず、就業者数は 2012 年と比べて 185 万人増加（うち女性は 152 万人）しました。有効求人倍率は 1.4 倍を超えて高度成長期以来の高さとなり、引き続き明るい動きがみられています。

一方、労働市場での人手不足感は大変深刻な状況となっており、経済の持続的な成長に向けた喫緊の課題となっています。

今後、高齢者や女性の積極的な労働参加により、潜在成長力の強化、所得や消費の底上げなど、経済面での大きな影響が期待されます。

こうした社会経済情勢の中、当センターでは、これまでの適正就業に伴う契約見直しが一巡したことから、就業委員会を中心に新たな請負契約の拡充はもとより、派遣事業について、実質的に 1 年間を通して行った初年度として、事務局体制を強化しながら、積極的に就業開拓を進めました。その結果、平成 29 年度の実績で、派遣契約金額では多摩地域で 2 番、東京都全体でも 4 番目という、目覚ましい結果を積み重ねてきています。

会員確保については、月 2 回の入会説明会に加え、各コミュニティ・センターを会場とした出前入会説明会の実施や、新聞折り込み、会員配付による入会案内のチラシの各戸配付、市やセンターの行事の場での広告入りのティッシュペーパーの配付など、様々な機会を活用してその増強を図ってまいりました。

その結果、高齢や体調などを理由に退会者も一定数ありましたが、全国レベルで見ると会員数が逡減しているシルバー人材センターの中にあつて、昨年を上回る 1,621 人の会員数を確保することができました。

平成 29 年度は第 3 次中期計画の 4 年目にあたり、次期中期計画も視野に入れながら、各部会や委員会が実施する各計画の取り組みにより、計画で掲げた 3 つの重点目標である「就業機会の拡大」、「センター基盤の強化」、「地域社会との共生」の実現に向けた歩みを進めてきました。

こうした事業の取り組みに際し、三鷹市、東京都、国からご理解とともに多大なご支援をいただいたことに深く感謝いたします。

## 1 事業概要

平成 29 年度における三鷹市シルバー人材センターの事業概要は、次のとおりです。( )内は前年度の実績。

会員数	1,621 人 (1,605 人)
	男 979 人(974 人) 女 642 人(631 人)

### [請負事業実績]

受託件数	10,959 件 (11,098 件)
契約金額	5 億 4,473 万円(5 億 5,899 万円)
うち公共事業	1 億 1,167 万円 (1 億 1,858 万円)
うち民間事業	4 億 3,306 万円 (4 億 4,041 万円)
配分金	4 億 7,894 万円 (4 億 9,186 万円)
就業延人員	195,873 人 (187,019 人)
就業実人員	1,283 人 (1,288 人)
就業率	79.1% (80.2%)

### [派遣事業実績]

契約件数	59 件 (18 件)
契約金額	4,174 万円 (284 万円)
就業延人員	6,719 人 (366 人)
就業実人員	100 人 (8 人)

これを前年度（平成 28 年度）の実績と比べますと、

会員数は 16 人(1.0%)の増、受託件数は 139 件(1.3%)の減、請負事業の契約金額は 1,426 万円(2.6%)の減で、内訳は公共事業で 691 万円(5.8%)の減、民間事業では 735 万円(1.7%)の減でした。配分金では 1,292 万円(2.6%)の減で、就業実人員は 5 人(0.4%)の減となり、就業率は 1.1 ポイントの減でした。

一方、実質的に初めて 1 年間を通した労働者派遣事業の実績は契約件数 59 件、実績金額は 4,174 万円となりました。

さらに、請負事業に派遣事業を加えた実績では 5 億 8,647 万円（5 億 6,183 万円）となり、対前年比 2,464 万円（4.4%）増となりました。これまで適正就業による事業見直しにより、長らく契約金額が減少傾向にありましたが、今年度は派遣事業を加えると平成 25 年度以来 4 年ぶりに対前年度実績を上回り、経営改善の兆しが見られました。

## 2 事業報告

### (1) 就業開拓提供事業

ア 第3次中期計画の重点目標の中で第一番目に掲げている「就業機会の拡大」については、就業委員会のメンバーを拡充・強化しました。その就業委員会が活動の中心となって、担当を決め、市内でもその数が急増している民間の保育施設や高齢者介護施設等を繰り返し訪問して、シルバー人材センターの受注実績などを紹介しているほか、大学施設での就業の新規開拓やマンション管理業務、施設清掃業務などの開拓、既存の発注者への訪問活動などを実施して業務拡大に努めました。一方、公共事業については、他自治体でのシルバーの活動事例を調査し、未受注の学校に対し、学校管理業務開拓に向けた体制整備の準備を行いました。

イ 適正就業について、今年度も就業現場の確認や契約書の内容精査を行い、法令の遵守に努めました。

ウ チョットサービスの包丁砥ぎは、年々依頼件数が増えており、一部では依頼に応えられない状況も起きています。今後は、新たな担い手の育成と包丁砥ぎ技術の平準化を図り、全ての依頼に対し質の高い仕事が提供できるよう、実施している各班の体制強化と未実施の地域への拡充が求められています。

### (2) 普及啓発事業

ア 会員増強については、市の行事である農業祭や商工まつりなど、人の集まるイベントでチラシを配付するなど、就業等を通して社会参加を希望する高齢者への入会促進に努めました。

イ 会員の丁寧で質のよい仕事ぶりや清掃ボランティア活動など、社会奉仕活動への取り組み等を通して地域の住民、事業所等の信頼を確保し、シルバー活動の普及啓発に努めました。

ウ PC向けやモバイル版のホームページの更新、「広報みたか」等市の刊行物によるPR、パンフレットの配付、新聞折込や会員によるチラシの市内配付、セカンドライフ相談会など他機関との共同PR活動、元気創造プラザでのシルバー人材センター展の開催、当センター2階で生涯学習教室などの作品展の開催、バスの車内アナウンスによるシルバーのPRなどで、より多くの市民にセンターの存在を知っていただけるよう努めました。

エ 地域班独自の活動として、公園清掃や野川・仙川などの地域清掃ボランティアを実施し、また児童等の登下校に際し安全を見守る安全安心パトロールに多くの会員が参加するなど、それぞれ地

域に密着した活動を積極的に行いました。

オ センター全体の活動として、毎年市内一斉清掃ボランティア活動を行っていますが、平成 29 年度は当初予定していた日程と予備日の両日とも台風が直撃し、残念ながら実施を見送りました。

カ 市民の行事として定着している「三鷹阿波おどり」「三鷹市民駅伝大会」に参加し、シルバーパワーをアピールしました。

キ 機関紙「かけはし」「事務局ニュース」「ふれあい」の発行、地域班長会での理事会報告など、会員に対しセンターの活動や会員活動、就業情報の提供に努めました。

ク 植木班では、シルバー活動を広く市役所や公共施設を訪れる市民のみなさまにアピールするため、恒例の正月の門松作りを実施し、市役所、介護老人保健施設や特別養護老人ホームに設置しました。

### (3) 研修・講習事業

質の高いサービスの提供を実現し、さらに新たな就業機会を確保するために、様々な機会を捉え、研修・講習事業を実施しました。研修では、会員のシルバー人材センターの理念や会員憲章の理解と賛同を深めると共に、講習で接遇や清掃技術など、就業・社会奉仕活動等に必要な知識や技能の修得を目指しました。

また、平成 30 年度が第 4 次中期計画の策定年次にあたることから、理事会と班長会の合同研修において新たな重点目標について議論し、現在のセンターの課題等に対する共通理解を深める場としました。

地域班長・連絡員会議の場を利用し、センターの各種情報を共有する研修を行い、今年度新たに地域班長・連絡員になった会員への研修会も実施しました。

ア センター独自の研修事業	参加者数	
役員・地域班長研修		
「第 4 次中期計画に向けて」	1 回	27 人
地域班長・連絡員会議研修	5 回	571 人
新任地域班長・連絡員研修	1 回	10 人
ホームヘルパー研修	9 回	354 人
新入会員研修	12 回	173 人
会員研修「コミュニケーション」	2 回	64 人

	会員研修「安全講話・日常清掃の仕方」	3回	61人
	安全リーダー研修	2回	64人
	植木班定例研修	10回	248人
イ	合同研修（第5ブロック）		
	役員研修「理事の役割と総会運営」	2月27日	11人
	安全就業のつどい		
	「交通安全と健康講話（知って防ごう熱中症）」	7月13日	7人
	会員研修		
	「腰すっきり講座」	10月19日	3人
ウ	連合及び全シ協主催研修		
	安全リーダー研修	7月24日	1人
	新任理事研修	7月21日	4人
	監事研修	4月12日	1人

#### (4) 調査研究事業

- ア 第3次中期計画の4年度目であり、各部会、委員会、職群班等が、計画の円滑な推進に向けた進捗管理と検証を行いました。
- イ 適正就業をさらに推進するため、各種業務内容の確認や契約内容の見直しなどを行って、法令遵守に努めました。
- ウ 自主事業については、特に介護保険事業において、法改正により同事業に対するシルバー人材センターの関わり方を見直す必要が生じたことから、国や市からの情報収集に努めるとともに、今後の方向性について検討しました。

#### (5) 相談事業

- ア 入会を希望する高齢者に対して、センター施設内で毎月2回と元気創造プラザで実施したシルバー人材センター展の最終日に1回の入会説明会を実施したほか、地域に出向いて実施する出前入会説明会も年3回開催しました。入会説明会では、全理事が輪番で先輩会員としての体験談スピーチを行いました。また、随時、市民及び会員を対象とした就業相談を実施しました。
- イ シルバー人材センター・わくわくサポート三鷹・三鷹いきいきプラス共催で、セカンドライフ相談会を開催し、定年後の就業や地域参加を希望する市民への支援事業を実施しました。

ウ 未就業の会員の就業を促進するため、就業説明会を4回実施したほか、センター玄関脇の掲示板に就業会員募集案内を掲出して会員への就業情報の提供に努めました。

(6) 安全就業推進事業

ア 安全は、高齢者が就業等の活動を通じて社会参加をする上で最も重要な課題であることから、高齢者が健康で安心して就業等の活動に専念できるよう、安全意識の徹底と事故防止に努めました。

安全管理委員会や安全リーダーによる事故防止のための様々な安全施策を講じてきました。平成29年度の事故の発生件数は15件で、前年度より1件増加しました。賠償事故は2件で前年度と同じでしたが傷害事故は前年度より1件増の13件でした。傷害事故のうち途上については就業途上5件、センター活動途上1件の合計6件で、昨年度より1件減少しましたが、就業中の事故は2件増加しました。また、夏季において熱中症による事故が3件、冬季においても大雪による転倒事故が3件発生しました。引き続き事故を分析し、より一層適切な対策を検討実施し、事故の減少、防止に努めます。

イ 安全就業のしおり・安全就業基準の配付や、安全標語の募集、安全ニュースの発行、安全リーダー研修の実施等により、事故防止の意識啓発に努めました。

ウ 「健康・安全の日」、「重篤事故防止の日」の就業会員全員を対象とした安全ワッペンの着用による安全意識高揚の取り組みなど、特に重篤事故の防止に配慮しながら会員の安全就業の徹底に努めました。

エ 安全管理委員会により、随時会員の就業現場の実地調査を行い、就業中の会員の安全に対する意識や実際の安全管理行動を確認するとともに、センターにおける安全就業に向けた情報の提供を行いました。